

脳卒中(脳梗塞・脳出血)

【主催・企画】
岐阜大学大学院
医学系研究科
【後援】
岐阜県・岐阜県教育委員会
岐阜市・岐阜市教育委員会

毎年ご好評をいただいています岐阜大学医学市民講座の今年のテーマは「脳卒中(脳梗塞・脳出血)」です。脳卒中とは、脳の血管が破れたり詰まったりして脳に血液が届かなくなり、脳に障害が起こる病気です。卒という漢字には、「卒業」のように、終わる。終える。という意味とともに、急に。突然に。という意味もあります。脳卒中という言葉は一般的に使われる用語であり医学用語ではありませんが、様々な原因による脳の病気が急に、あるいは突然に起こるという意味ではわかりやすい言葉かも知れません。今回の市民講座では、脳神経外科診療の専門家として岐阜大学医学部附属病院で活躍中の3名の講師が3つのテーマ、「脳卒中ってどんな病気?」、「脳卒中になってしまったら(脳梗塞編)」、「脳卒中になってしまったら(脳出血、くも膜下出血編)」をわかりやすく解説します。時間の許す限り皆様の疑問・質問にお答えします。脳卒中の予防あるいは対処の仕方に理解を深めていただけたら誠に幸いです。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

日時 平成26年9月28日(日)
13:30~16:30

会場 岐阜大学医学部記念会館
2階ホール(岐阜市柳戸1番1)

講師・講義案内 裏面参照

受講対象者 一般社会人

定員 150名

受講料 無料



申込方法

①メールでの申込方法

件名に「岐阜大学医学市民講座受講希望」本文に氏名・電話番号を明記の上、igakubu-26smn@gifu-u.ac.jpへメールを送信下さい。後日、受講申込書(Word)及びパンフレット(PDF)を返信しますので、受講申込書に必要事項を入力の上再度送信下さい。

②郵送での申込方法

直接下記申込先へ郵送して下さい。受講申込書は、医学系研究科・医学部総務係及び本学の各学部等にあります。また、岐阜大学医学部ホームページ(<http://www.med.gifu-u.ac.jp/>)からも受講申込書をダウンロードできます。なお、受講申込書の入手が困難な場合は、氏名(ふりがな)、性別、現住所、電話番号、過去の受講歴、職業、年齢、修了証書発行希望の有無を記入したものを直接下記へ郵送下さい。なお、郵送される際は、返信用封筒(長型3号・82円切手貼付)を同封願います。

申込期間 8月1日(金)から9月19日(金)

- 申込みに関する個人情報につきましては、講座実施のための資料として以外は使用いたしません。
- 定員になり次第、締め切らせていただきます。
- テキストは当日配布します。
- 希望者には、後日修了証書をお送りします。申込の際、必ず「修了証書発行希望」欄にチェックを入れて下さい。
- 車でお越しの方は、当日職員用駐車場を開放いたしますのでご利用ください。

申込み
問合せ

〒501-1194 岐阜市柳戸1番1
岐阜大学医学系研究科・医学部 総務係
TEL 058(230)6051(直通)

<電話受付時間>9時から16時まで(土・日・祝日・8/14・15を除く)



<講師・講義内容>

○13:30～ 開講

○13:35～14:15

医学部附属病院
脳神経外科

准教授 石澤 錠二
(こくざわ じょうじ)



脳卒中ってどんな病気？

突然、話せなくなったり、片側の手足が動かなくなったりするのが脳卒中、その原因は、脳血管が詰まったり破れたりして、脳細胞が死んでしまうためです。脳血管が障害されるため脳血管障害とも呼ばれます。脳卒中は、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の3つに分類されます。脳血管が詰まる場合を脳梗塞、細い血管が破れて脳内に血液の塊ができる場合を脳出血、比較的太い動脈にできたこぶが破裂するとくも膜下出血になります。脳卒中は発症すれば後遺症が残りやすい病気です。第一に脳卒中にならないようにすること、そして、なってしまったらより早く治療をすることが重要です。今回は、脳卒中についての理解を深めていただけるよう、わかりやすく脳卒中を解説します。

○14:15～14:55

医学部附属病院
脳神経外科

併任講師 榎本 由貴子
(えのもと ゆきこ)



脳卒中になってしまったら (脳梗塞編)

ひとむかし前は有効な治療法がなかった脳梗塞、なってしまったら仕方がないと考えられていました。しかし現在では、2005年から認可されたtPA静注療法、2010年から認可された機械的血栓回収療法などの急性期再開通療法により、発症数時間以内であれば劇的に回復するチャンスがある時代です。また、脳梗塞の予防薬もこの数年間で大きく様変わりし、正しく内服していればかなりの確率で脳梗塞を予防できるようになりました。脳梗塞になってしまった場合には、どのくらい急がないといけないのか？救急車を呼ぶかどうかのポイントは何？どんな治療が有効なのか？今後の再発を予防するためには？についてわかりやすくお話します。

○14:55～15:10

休憩

○15:10～15:50

医学部附属病院

脳神経外科

医員 山内 圭太

(やまうち けいた)



脳卒中になってしまったら (脳出血、くも膜下出血編)

出血性脳卒中は、主には脳内の血管が破れる脳内出血と脳の表面の血管にできた動脈瘤が破れるくも膜下出血に大別できます。これらは生命に危険を及ぼしたり、後遺症を残してしまう可能性のある病気であり、早期に専門病院で対処する必要があります。これらの病気を発症してしまった場合、適切に対処するためには、まずこれらの病気について知っておくことが重要です。今回の講演では出血性脳卒中はどんな症状で発症するのか、発症してしまった場合の対処はどうすればいいのか、どのような治療法があるのかということを中心に解説致します。

○15:50～16:20 質疑応答・総合討議

○16:20～ 閉講